

ガイド・解説検討のポジティブチェック・ネガティブチェック表

ガイド・解説の場で、具体的にどうするのが良いかということは個々のケースに照らして考えるしかありません。意図せずに差別的なガイドをしてしまうことを避けるため、検討の目安として「ガイド・解説検討のポジティブチェック・ネガティブチェック」を試してみてください。

1. 客観性を保つ。／誰かを排除した表現を採らない。

良い例	・私たちの繁栄は、これまでのアイヌ民族や和人の努力の上に築かれてきました。	
悪い例	アイヌ民族とともに歩もう。	「歩む」、「理解する」主体は明示されていませんが、事実上和人を指していることは明らかです。メッセージの送り手・受け手（暗黙のうちに）和人とするのは「社会は和人を中心に営まれている」というのと同じメッセージを含みます。
	アイヌ民族を理解するために。	
	私たちの繁栄は、アイヌ民族や先人の努力の上に築かれてきました。	公共の刊行物などにもしばしば見られる表現ですが、アイヌ民族を「私たち」と対置している（除外している）表現であり、論外です。
私たちの町にはアイヌ民族の文化もある。大切にしていこう。		

2. 不快感を与える表現は避ける。／主語を置き換えても違和感がないか。

良い例	・アイヌ民族の社会では、集落や地域をまとめる酋長が内部の秩序を保ってきました。今日では伝統的な酋長制は取られていませんが、北海道内の各市町村をはじめ、全国各地に誇っています。いわば、各地の行政は、本来であれば地域にアイヌ民族が誇ることを前提とし、その公益をも担うこととなります。	
悪い例	アイヌ民族は、今では阿寒や白老などでは見られません。	まるで動物についてでも説明するかのような口調で、論外です。「日本人は今では日本などでしか見られません」と言い換えるのでしょうか。また「今では～ません」という口調は「滅びの語り」と言われるもので、アイヌ民族に「滅びゆく者」という哀調を帯びさせつつ「希少価値」を訴えかける表現です。
	北海道にはアイヌ民族が誇っていました。	「埼玉県には日本人々が誇っていました」と聞くと、受け取り方によっては「まるで今はないようだ」と感じてしまいます。
	アイヌ民族の村には酋長がいました。	日本語の語感には「～人、～民族、～部族、～族」の順に、前の方ほど文明的であるという無意識の使い分けがあります。「日本族の村には酋長がいました」という表現に違和感があるとすれば、そうした表現を他の民族にも使うべきではないでしょう。

ガイド・解説検討のポジティブチェック・ネガティブチェック表

3. 社会・文化の変容を視野に入れる。／本質主義的になっていないか。

良い例	・△世紀頃の□地方の、アイヌ民族のくらしは～～でした。	
悪い例	本来のアイヌ民族らしい思想／くらしは～～だ。	文化は常に変化しているので、いつのどこの文化をもつても、それを「本来のもの」とすることはできません。現代のくらしを否定的に見ることもつながらるので、注意が必要です。
	アイヌ文化は13世紀に成立した。	アイヌ民族についての解説には「起源」を述べたものが良く見られますが、和人・日本人の解説にはそのような表現はあまり見られません。そこには「自分たちの起源は重大な関心事であり、簡単には結論づけられれば批判を受けかねない」という事情も働いているのではないのでしょうか。それに対して「アイヌ民族は13世紀」と言ってしまうのはあまりに気安い態度で、他者の軽視とも取れます。本文10頁参照。
	純粋のアイヌ民族はもういない。	他の集団から孤立した人間集団はいませんが、それによって民族性を否定することは、他者の自己規定に介入することになります。本文117頁参照。

4. 人類の多様性に配慮する。／ある1つの考えや文化を、人類全体の中心・標準にしない。

良い例	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以前のアイヌ文化は口承の文化である。 ・北海道には、アイヌ民族の長い歴史があります。その歩みは、アイヌ民族の口碑、文献、考古学的資料などによってたどることができます。 ・中央集権型の国家は、人類社会の一形態であり、すべての文化がそこを指向するわけではありません。小さな単位の集団で自己決定をし、必要に応じて協力したり距離を取ったりという社会も少なくありません。今日の国際社会では国家が主権の基盤であり、国家をもたなければ自己決定ができません。今日国際社会では国家が主権の基盤であり、国家をもたなければ自己決定ができません。こうした取り決め自体、国家を作ってきた社会の都合に沿ったものだとすることは見落とすことはできません。 ・農耕や狩猟など、ある生業にどのていどコストを割くかは文化によって様々です。アイヌ社会での農耕は、いくつかの生業と組み合わせるものの1つであり、その範囲で必要な労力をかけていました。 ・アイヌ社会は口承文化を築いてきました。 	
悪い例	明治になると北海道の開拓が進みました。	「開拓」とは、人が利用できない場所を利用できるようにする、という意味です。明治期に和人が農地や住宅地、牧畜用地、工業用地にした場所は、アイヌ民族が近代以前に狩猟、採集、漁労などを行ってきた土地でした。「開拓」という言葉はポジティブな響きを持ちますが、アイヌ民族にとっては生活環境からの締め出しと破壊に他なりません。これらの言葉を自明のものとして使用することは、アイヌ民族の存在や思想をまったく顧みないことを意味します。
	北海道には歴史がない／浅い。	非常によく耳にする表現ですが「北海道の歴史＝和人の歴史」と考えるものであり、アイヌ民族がまったく視野に入っていない点で論外です。
	アイヌ民族には国家がない。	※人間社会は国家を建設するのが「ふつう」だとする先入観があります。「複雑／単純な社会」という表現も価値判断を含みます。これらを避けた表現として、「大きな、小さな社会」など規模によって語る方法があります。
	アイヌ民族の農耕は原始農耕だった。	農耕のスタイルは、労働力を農耕に集中させるか、ほかの生業に振り分けるかという価値観・選択が反映されます。農耕に特化した社会の農法をモデルに、優劣として説明することは危険です。
アイヌ民族は文字を持たない。	「アイヌ民族には～～はないが～～である」といった否定を含む表現は、ムダな情報が多いうえ、別な文化を「標準」にする考え方が影響しています。また、歴史的变化も見落としています。	

ガイド・解説検討のポジティブチェック・ネガティブチェック表

5. 主語を明確にする。/受け身表現を使わない。

良い例	・明治になると、和人は北海道を日本の領土とし、アイヌ民族を日本国民に統合しました。	
悪い例	明治になると、北海道は日本の領土とされ、アイヌ民族は日本国民に統合されました。	受身表現を乱用すると、主語が表示されないため、そのことを主導したのが誰だったのかが曖昧になりません。能動文にすることで、責任の所在が明確になります。

6. 事実に即して語る。/根拠は明確か。

良い例	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類は重要な食物で、釣りや銚のほか、自製の網で捕獲しました。魚肉を生や焼く煮るなどの方法で食べるほか、軟骨、腸、魚卵、魚皮など様々な部位を利用して多彩なメニューを作りました。 ・この地域の伝承によれば〇〇は〇〇である（出典：〇〇）。 	
悪い例	アイヌ民族は資源を大切にするため、産卵前のサケはとらない。	魚卵は、重要な食材の一つです。自然との結びつきを語ったエピソードは、解説者のロマンであったり、かなり誇張されていることがあります。
	アイヌ民族の伝説によれば、むかし、許されない恋に悩んだ若者と娘が身を投げて□□になったという。	「アイヌ民族の伝説」として各地で語られるものには、戦前・戦後に考案されたものが多く含まれています。それらには、悲恋を主題とするなど傾向があります。根拠を確認する際には、アイヌ語の原文が残っているかどうか一つの目安になります。なお、アイヌ民族の書き手が書いたものでも、日本語の文には部分的に脚色や改変が加えられていることがあります。より具体的には地元の博物館や研究機関などに相談すると良いでしょう。

7. 過度の神秘化や、過剰な意味づけをしない。

良い例	<ul style="list-style-type: none"> ・ irankarapte はこんにはちという意味です。 ・ 文様は装飾と、衣服の場合には補強を兼ねて特に傷みややすい部位に施されました。 ・ 入れ墨の慣習は太平洋からアジア、シベリアに広く見られ、日本列島もその文化圏に位置しています。アイヌ民族の入れ墨は、古代の神の模倣とも言われ、たいへん美しいものとされてきました。 	
悪い例	「イランカラパテ」とは「心にそっ と触れさせてください」という意味。	通説とされる解釈にも根拠がない場合があり、常に確認や検証が大切です。
	アイヌ文様はただの装飾ではなく、魔除けである。	
	入れ墨は和人にさらわれないよう、わざと醜くするためのもの。	

ガイド・解説検討のポジティブチェック・ネガティブチェック表

8. 笑い話・ジョーク・美談は吟味する。／一般に広まっているものに差別性はないか。

良い例	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の各方言では、10 から 19 までは 10 進法、20 以上になると 20 進法を取ることが一般的です。 ・人間社会に普遍的に見られるように、アイヌ社会内にもしばしば勢力間の競争や反目がありました。 ・明治政府の政策により、アイヌ民族は土地と資源を失って困窮しました。明治政府はこの貧困への対策を「給与」「救済」などと温情主義的な言葉で表現しました。 	
悪い例	アイヌ民族は数を数えられなかったため、アイヌ勘定でたまされた。	ジョークには、しばしば文化や気質・体質の違いと、優劣や好悪を結びつけたものがあり、聞く人の立場にとっては非常に侮蔑的に響きます。誰にとっても楽しめるものでなければ、ジョークとしての価値を持ちません。
	シャクシャインの頃から、団結できないのはアイヌの民族性だ。	人の集団に、内部の対立や葛藤が見られるのは普遍的なことです。そうした事柄を特定の集団に、それも本質的なものとして結びつけることは単純な差別であり、ジョークとしての価値を持ちません。これら悪質な「ジョーク」は、聞く者が場の雰囲気や空気を壊さぬように聞き流すことによって「ジョーク」としての体裁を保つものです。したがって、このような「ジョーク」が成立する場にはある種の力関係が存在します。しかしながら、発する側は気楽な気持ちで、相手を侮蔑したことについても軽く考えるぶん、より危険だと言えます。
	明治政府は困窮したアイヌ民族に土地を与えた。	歴史的経緯を知れば、アイヌ民族の困窮が何によるものか、また明治政府が土地を「与える」という表現が一方的な見方に立ったものであることがわかります。本文 8 頁参照。

9. 地域性や歴史性に配慮する（小さな主語で語る）。／安易な一般化や、過去と現在を混同していないか。

良い例	<ul style="list-style-type: none"> ・平取地方の伝承では、アイヌ民族に文化を教えたのはオキクルミだ。 ・アイヌ民族の楽器としてよく知られているものはムックリとトンコリです。このほか、時代とともに新しい楽器が取り入れられ、音楽の幅も広がっています。 	
悪い例	アイヌ民族に文化を教えたのはオキクルミだ。	文化神は地域によってサマイェクルやヤイレスーボなど様々な呼ばれ方をします。解説の際には「どこそこの地域では」と限定するなど、なるべく小さな主語をういます。
	アイヌ民族の楽器はムックリとトンコリです。	今日のアイヌ民族の音楽には、三味線、ヴァイオリン、ジャンベなど様々な楽器が用いられますし、三味線などは江戸時代から身近なものでした。

10. 知らないことを聞かれたときに「わからない」と答える覚悟があるか。

知らずに、あるいは推測を交えて話したことも、観光客にとっては「地元の話」というリアリティを持って伝わります。それらは、その場だけの話では終わらず、アイヌ民族全体についての「事実」になっていきます。そのことの重大性を常に意識する必要があります。